



# 感染症発生動向調査 Infectious Diseases Weekly Report 週報

今週の発生動向総覧	1	4月報時系列グラフ総覧	11
4月報発生動向総覧	2	今週の全データ	16
季節の疾患(手足口病)	3	4月報全データ	24
今週の時系列グラフ総覧	4	感染症の話(風疹)	27

## 今週の発生動向総覧

### 全数報告の感染症

- 1 類感染症の報告はない。
- 2 類感染症：細菌性赤痢 14 例、腸チフス 3 例、パラチフス 1 例の報告がある。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症は 17 例が報告されている。
- 4 類感染症：アメーバ赤痢 3 例、オウム病 2 例、ウイルス肝炎 26 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、AIDS 4 例、ツツガムシ病 6 例、梅毒 5 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 1 例の報告がある。

### 定点把握の対象となる 4 類感染症(週報対象のもの)

咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、突発性発疹、急性出血性結膜炎などの疾患が例年に比し定点あたりの報告数が多くなっている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は大分県で定点あたり報告数が 3.50 と多い。感染性胃腸炎は新潟、福井、鳥取の各県で定点あたり報告数が 10 件を越えている。水痘は西日本で報告数が多い。とくに宮崎県の定点あたり報告数 4.14 を筆頭に九州地方で報告数が多くなっており、そのほか静岡、愛知、奈良、和歌山、鳥取、高知、愛媛の各県でも報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は茨城県で定点あたり 3.75 人、愛媛県で 3.57 人と報告数が多くなっている。

(注) 現在の時点で定点把握の疾患について全県分未報告の県は千葉県(千葉市含む) 一部の保健所で未報告の県は神奈川県である。

## 4月報発生動向総覧

本年4月1日より施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下新法)の下での第1回目の感染症発生動向調査月報(以下月報)の集計結果に対する感染症情報センターの分析結果を報告する。新法下では、定点把握の4類感染症のうち、性感染症である性器クラミジア感染症、性器ヘルペス感染症、尖形コンジローム、淋菌感染症が性感染症定点より、薬剤耐性菌感染症であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は基幹定点より、それぞれ月単位で報告されることになっており、これらをまとめて集計したものが月報である。

### ・性感染症について

定点数、定点医療機関に変更があったため、旧体制下における感染症発生動向調査のデータとの比較は困難である。(定点当たり報告数は全ての性感染症で旧体制下の数値より大きくなっている。)報告実数は、性器クラミジア感染症2,242(男989、女1,253)、性器ヘルペスウイルス感染症726(男328、女383)、尖形コンジローム321(男184、女137)、淋菌感染症1,006(男838、女168)であった。

年齢階級別では、性器クラミジア感染症、尖形コンジローム、淋菌感染症が20-24歳で最も多く、性器ヘルペスウイルス感染症は20-25歳が最も多く、いずれも20代にピークがあった。

### ・薬剤耐性菌

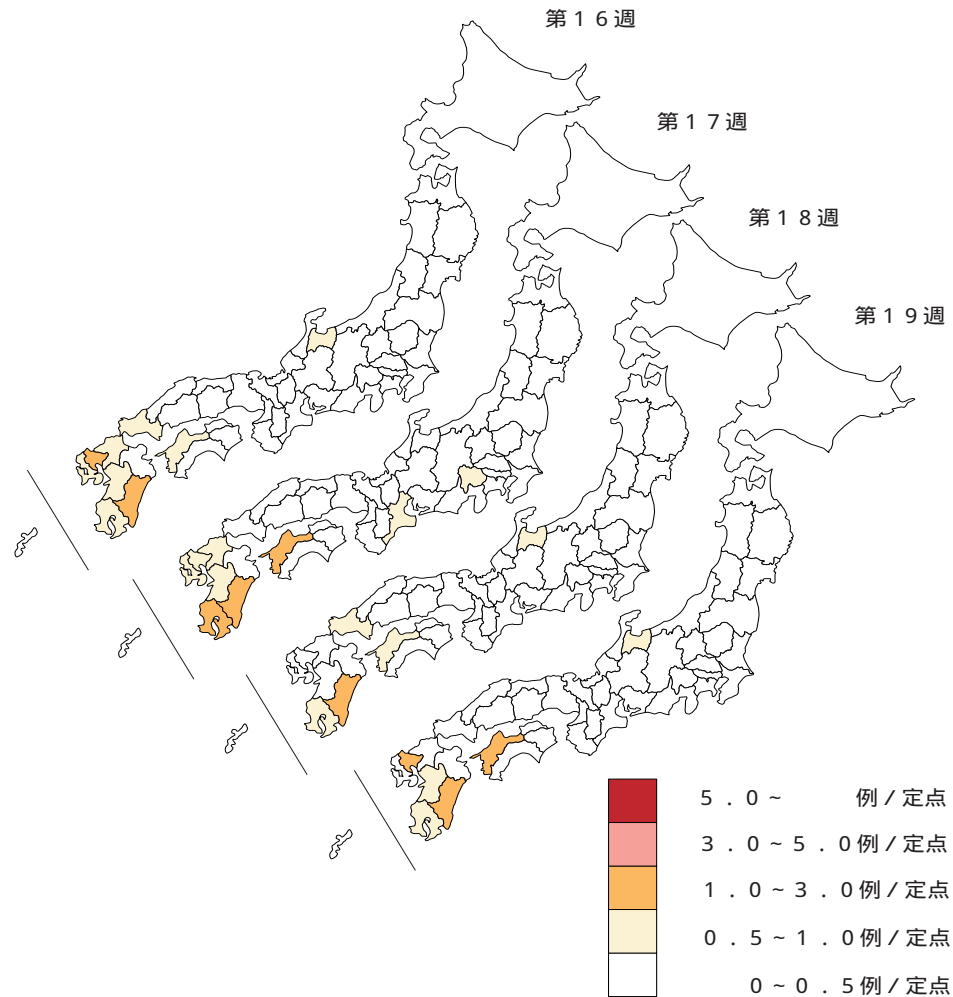
報告総数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症が850、ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症が116、薬剤耐性緑膿菌感染症が28例であった。

年齢階級別ではMRSA感染症は0歳、1-4歳と60歳以上の高齢者に多く、PRSP感染症は1-4歳で最も多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症はその半数近くが70歳以上の高齢者であった。

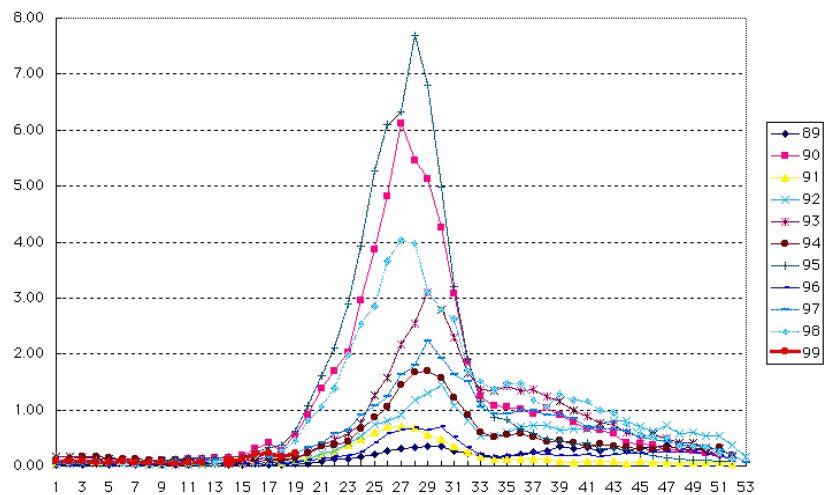
(注)現在の時点で定点把握の疾患について全県分未報告の県は千葉県(千葉市含む)、一部の保健所で未報告の県は秋田県、東京都、神奈川県、大阪府、福岡県である。

## 季節の疾患(手足口病)

第19週の手足口病は2620の定点から595例の報告があり、定点当たり0.23例であった。現在のところ、1990、95、98年のような急激な増加パターンをとっておらず、1997年のような緩やかな曲線状に乗っている。地域的には九州、四国にて報告が見られるが、定点当たり1例程度に留まっている。

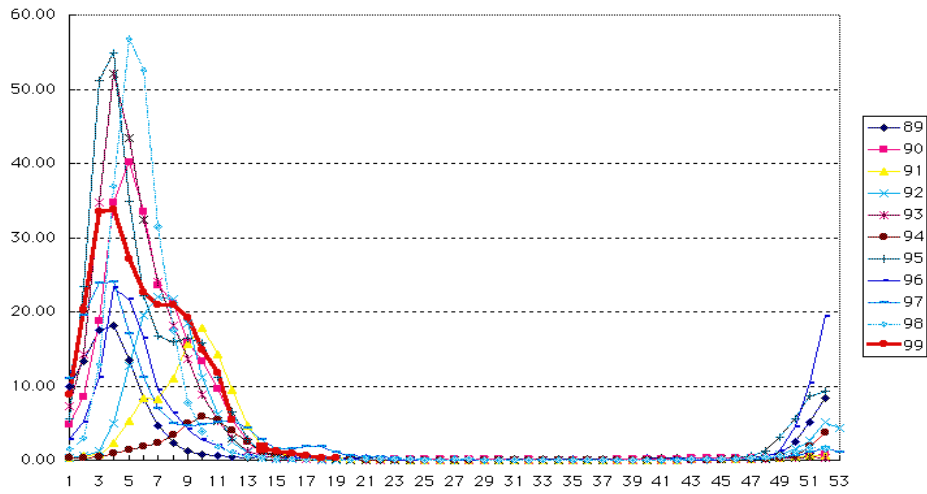


手足口病の10年間の週別定点当たり発生報告数グラフ

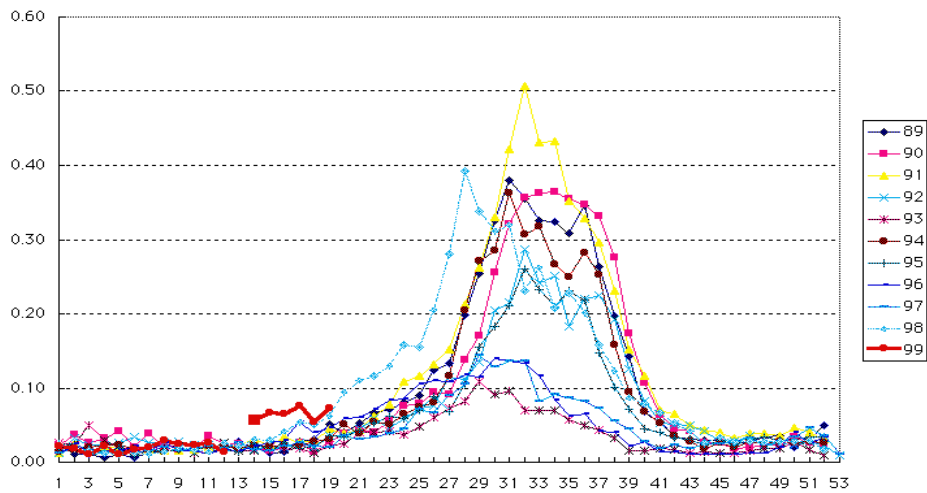


## 今週の時系列グラフ総覧

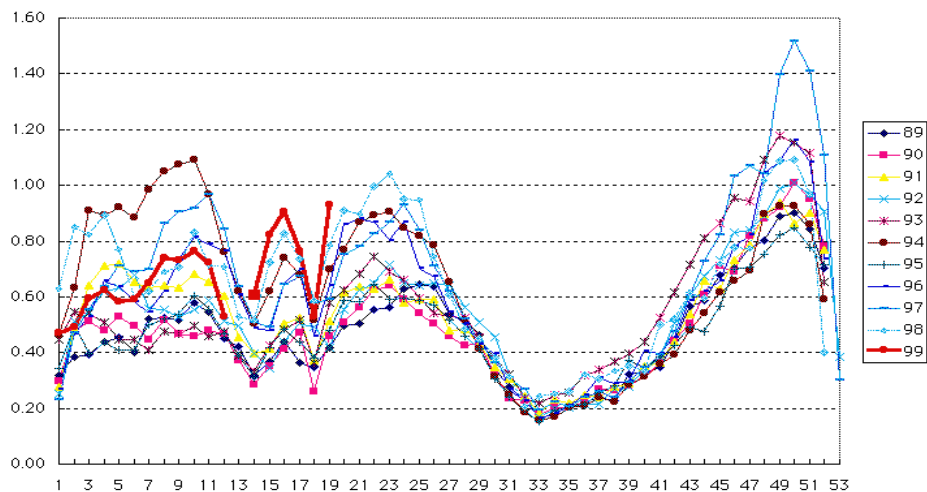
### インフルエンザ



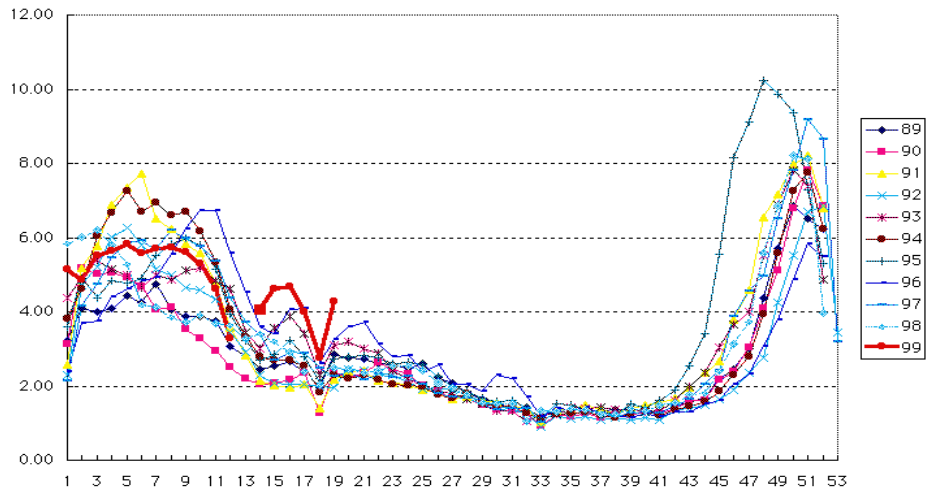
### 咽頭結膜熱



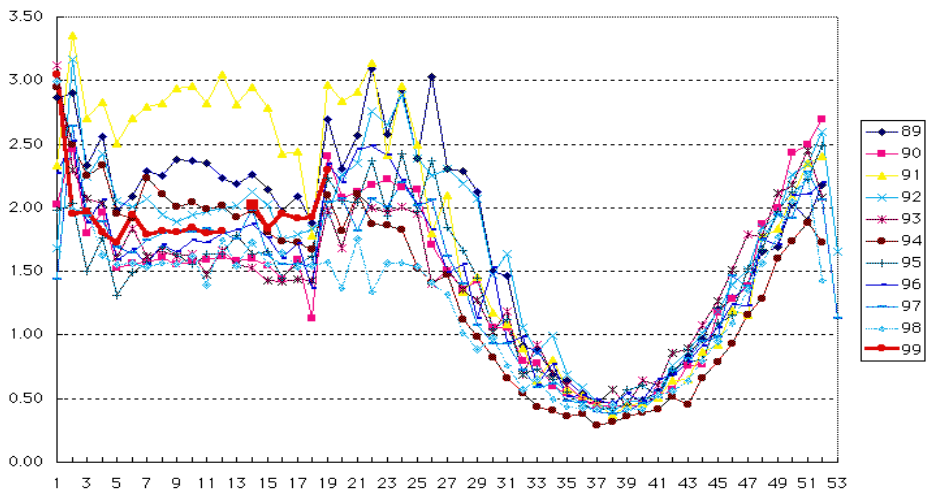
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



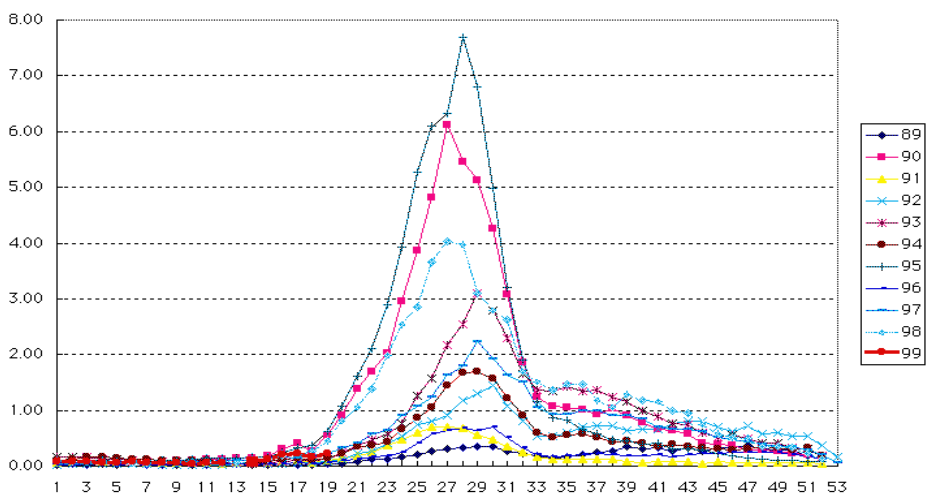
感染性胃腸炎



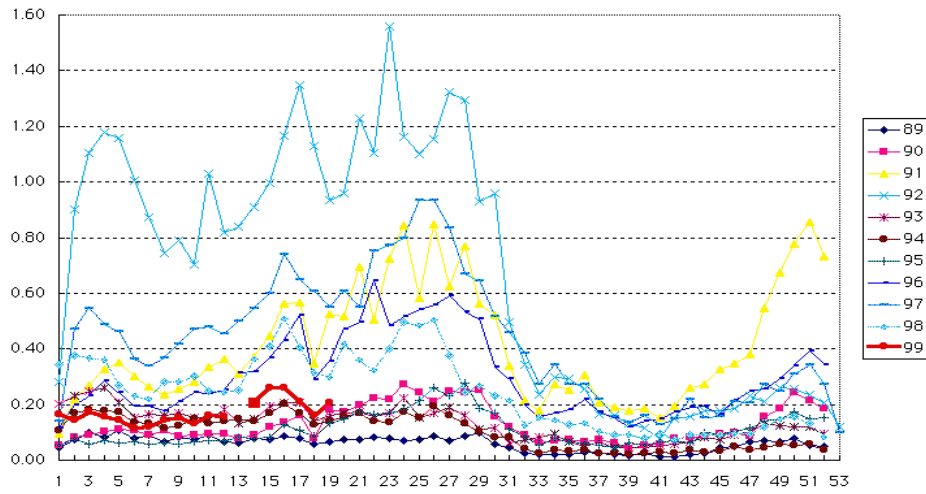
水痘



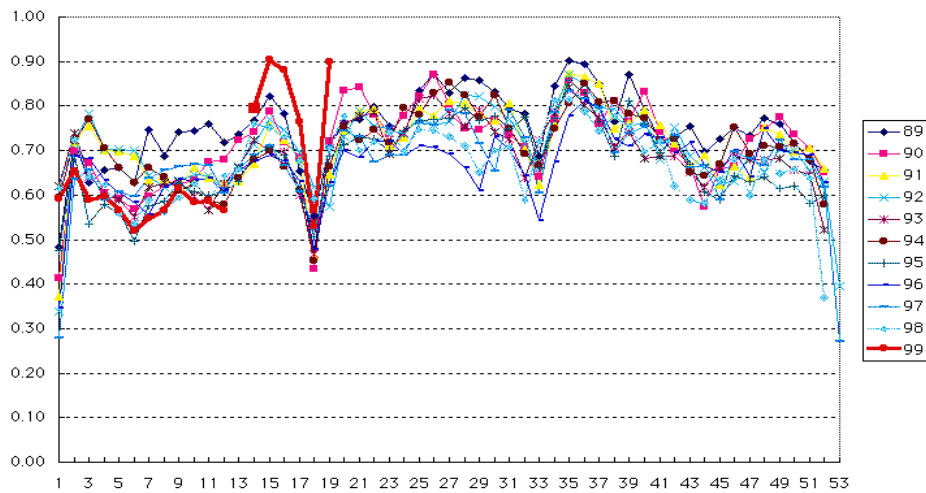
手足口病



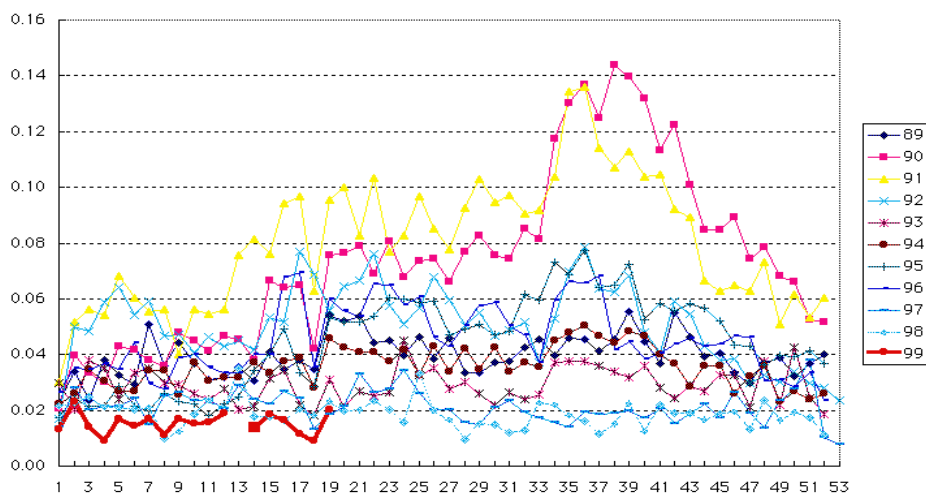
伝染性紅斑



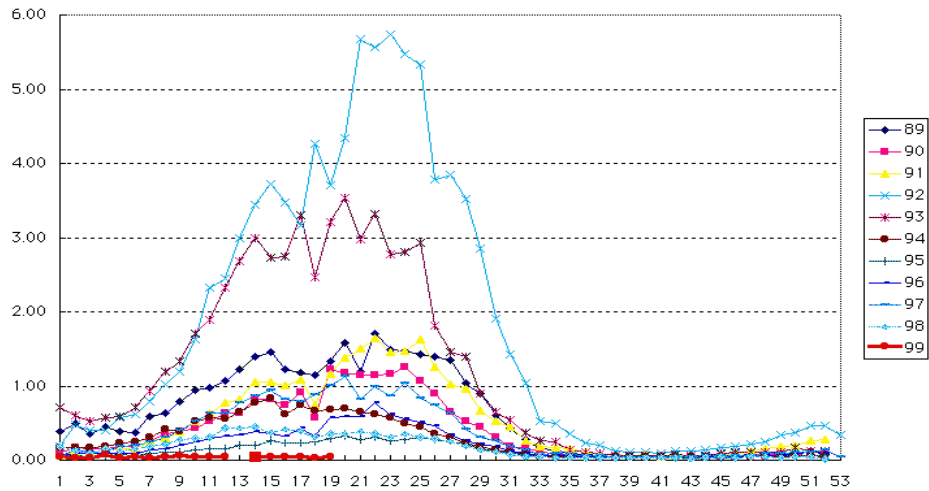
突発性発疹



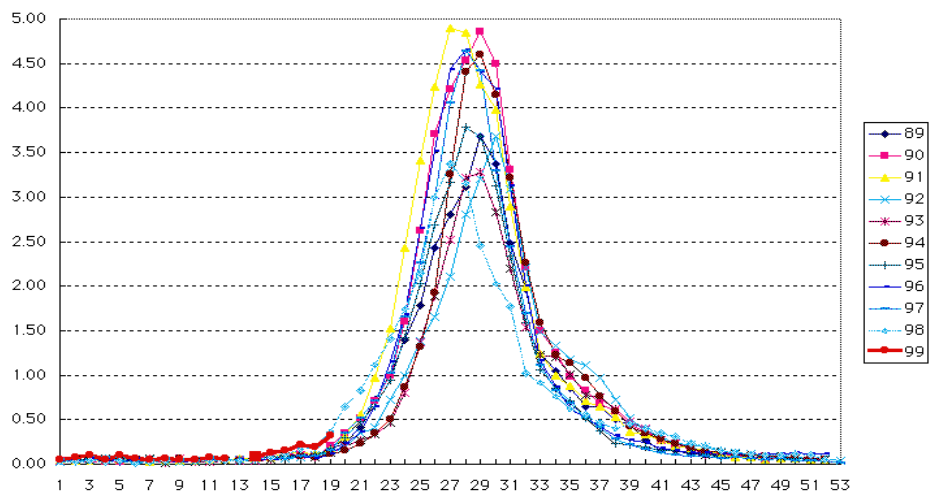
百日咳



風 疹

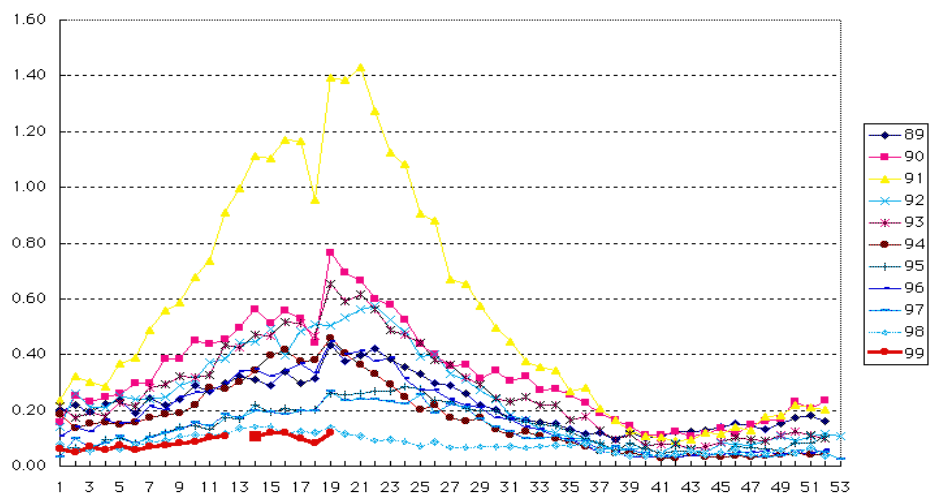


ヘルパンギーナ



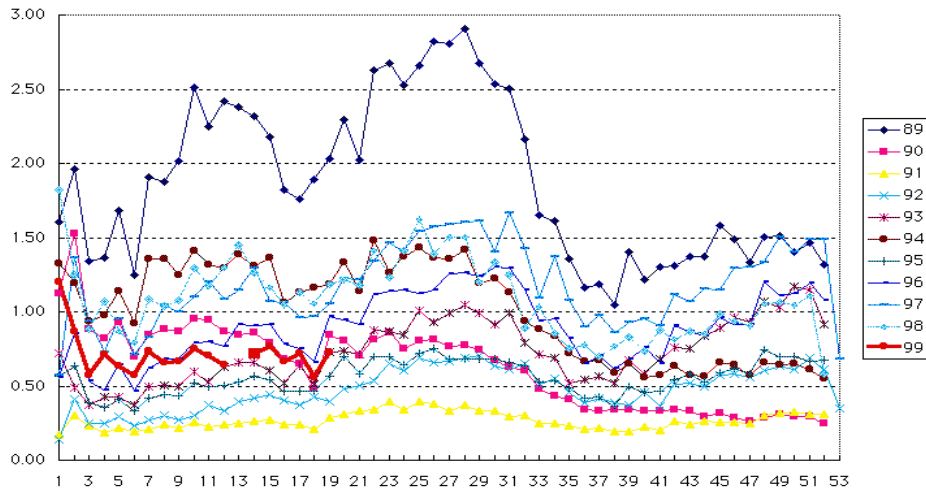
麻 疹 (成人麻疹を除く)

1999年の12週以前は成人麻疹を含む

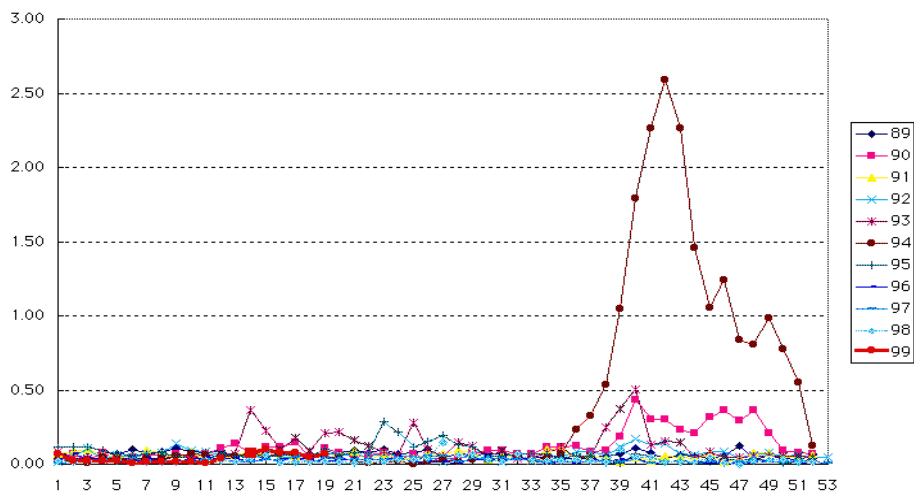




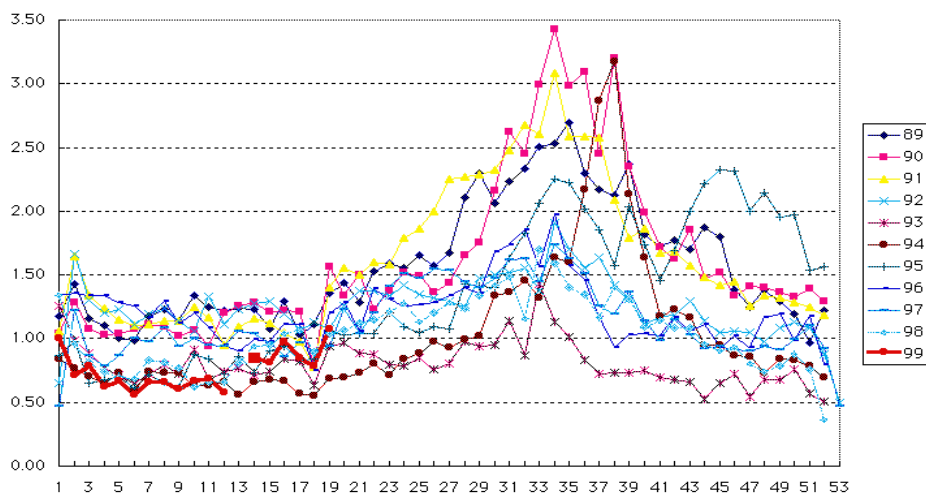
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

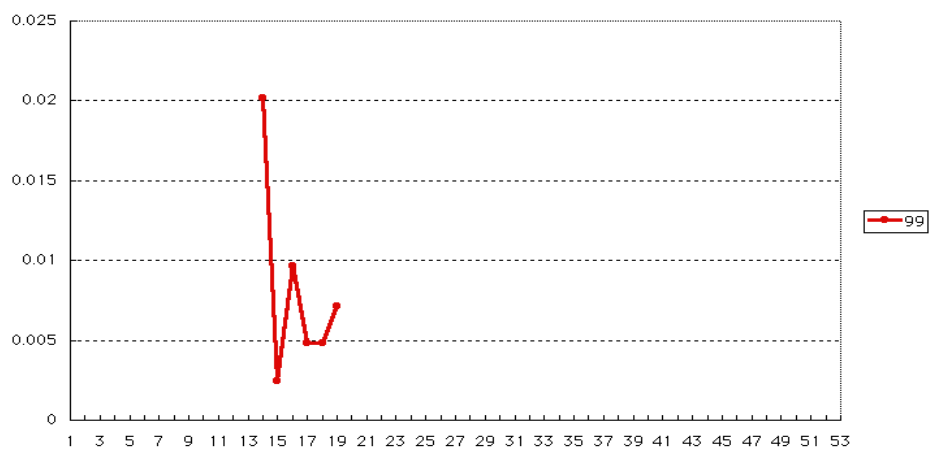


流行性角結膜炎

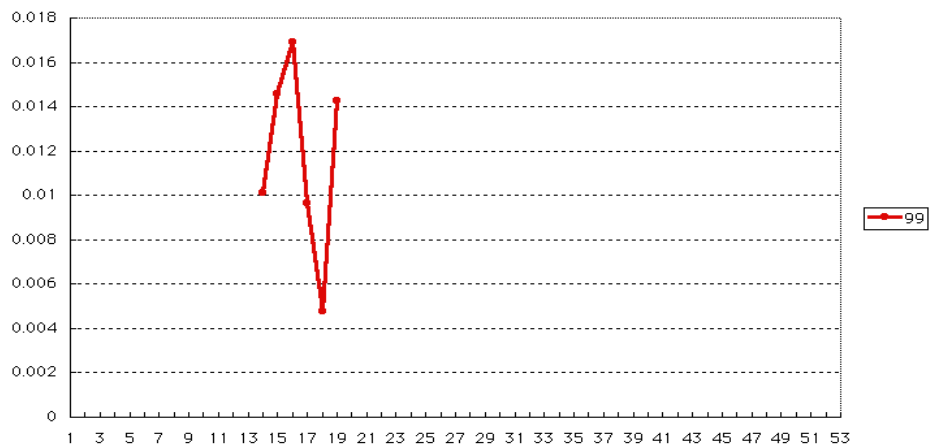




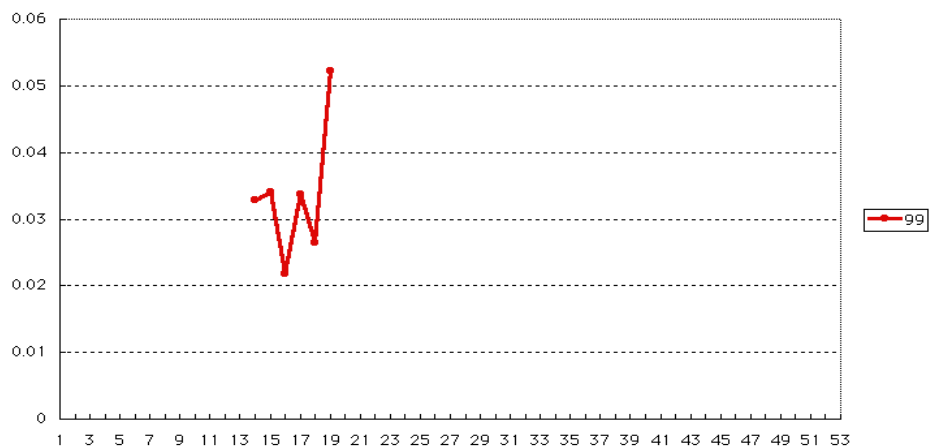
急性脳炎(日本脳炎を除く)



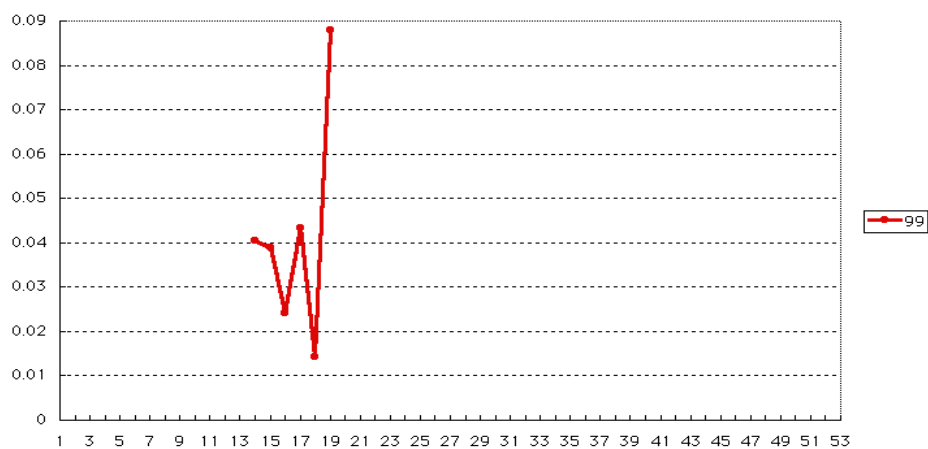
細菌性髄膜炎



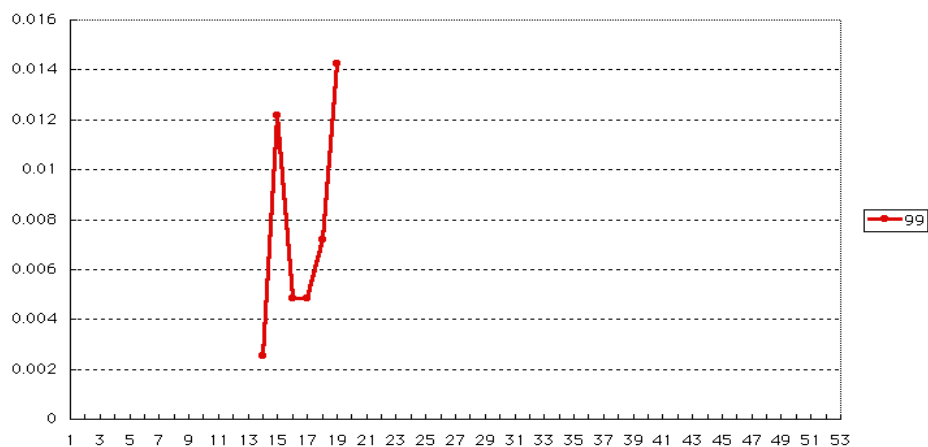
無菌性髄膜炎



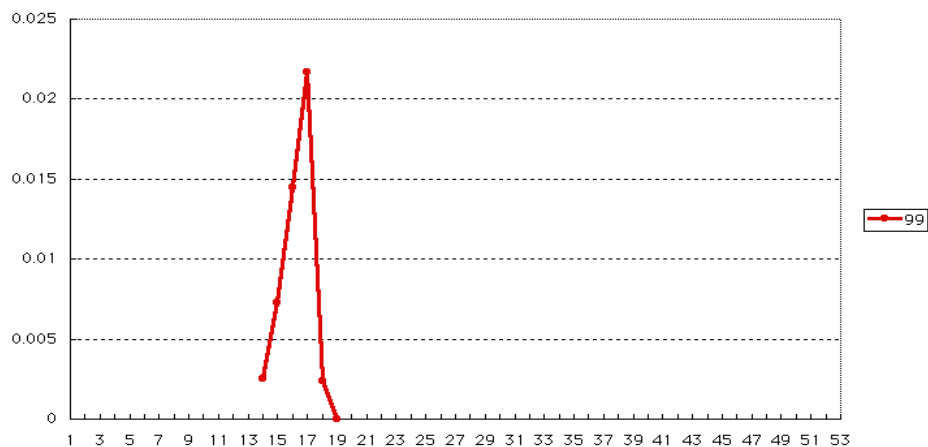
### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

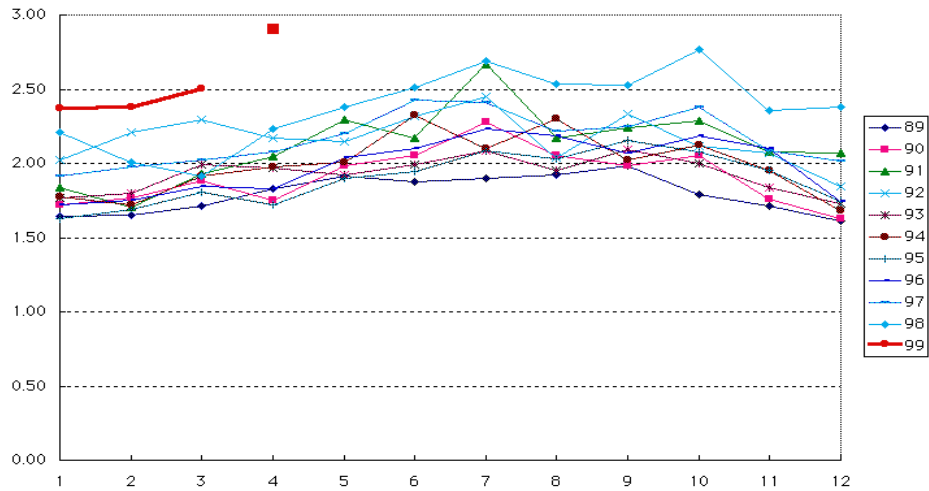


### 成人麻疹

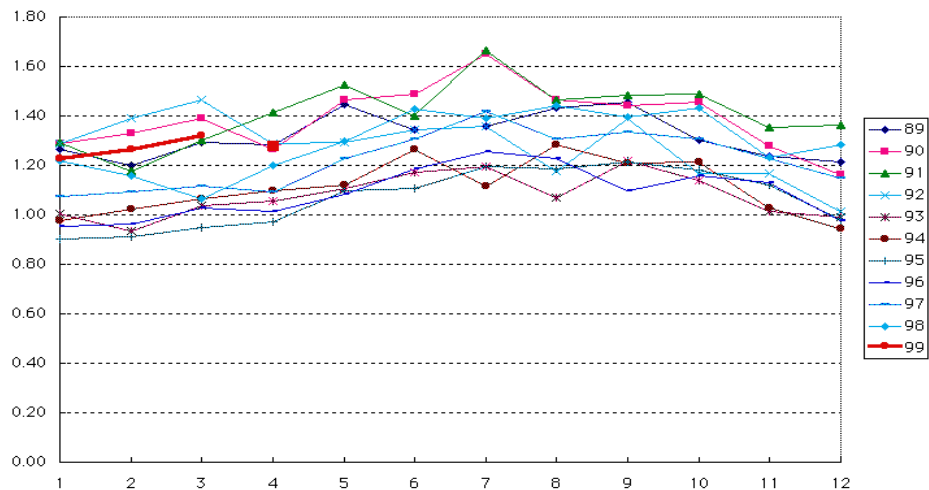


## 4月報時系列グラフ総覧

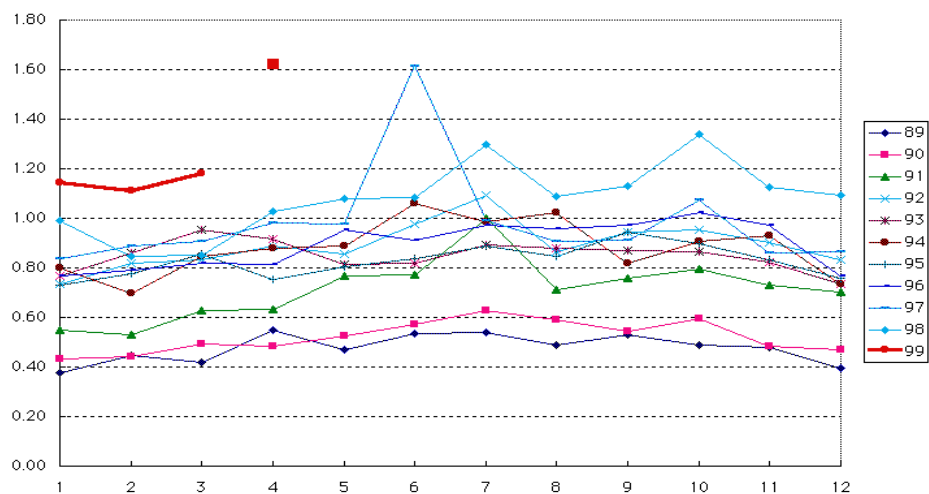
### 性器クラミジア感染症(総数)



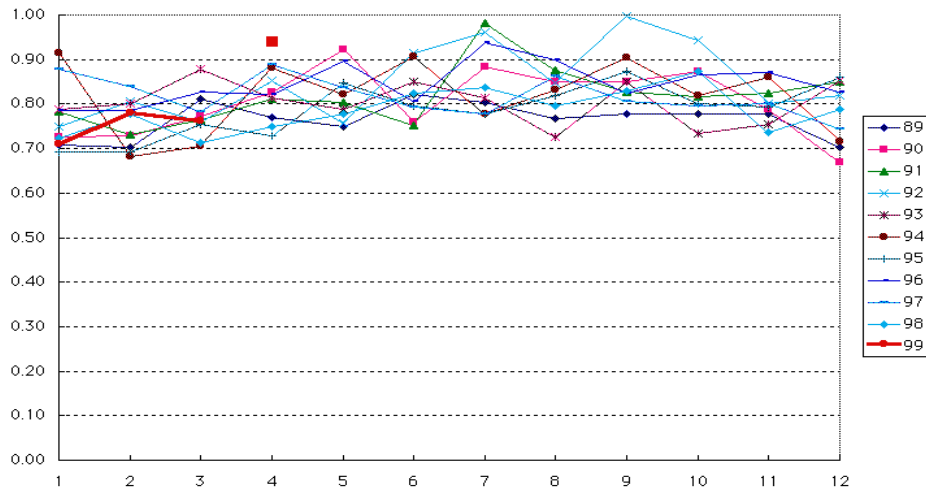
### 性器クラミジア感染症(男性)



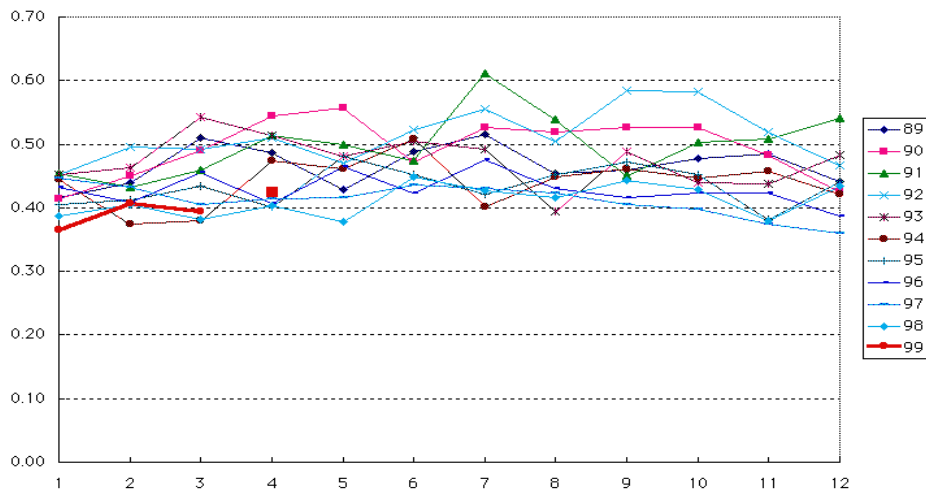
### 性器クラミジア感染症(女性)



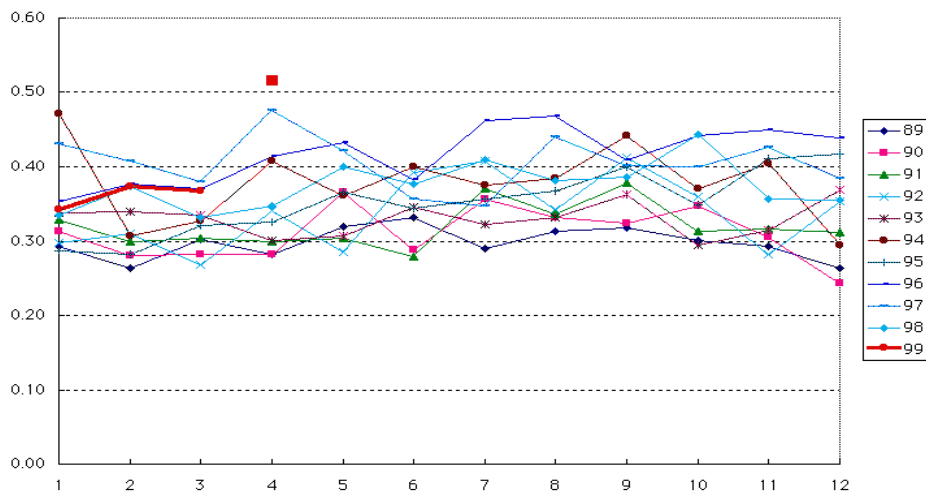
性器ヘルペスウイルス感染症(総数)



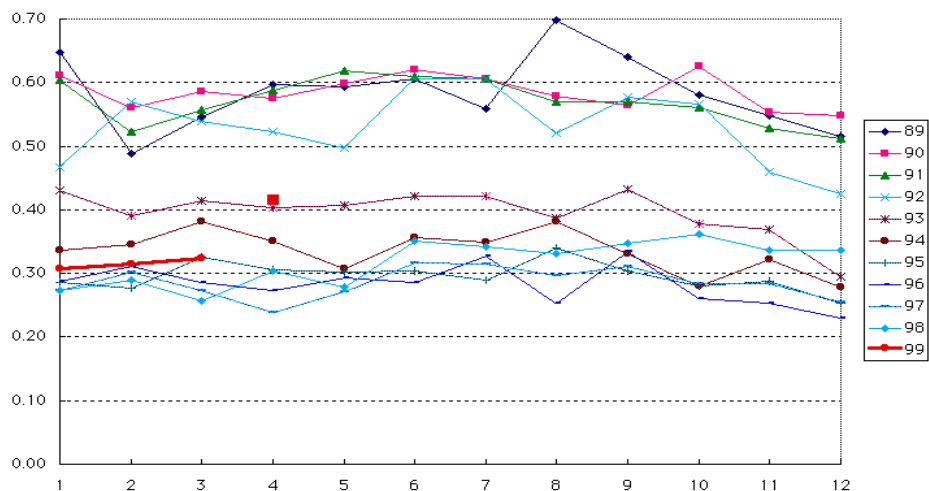
性器ヘルペスウイルス感染症(男性)



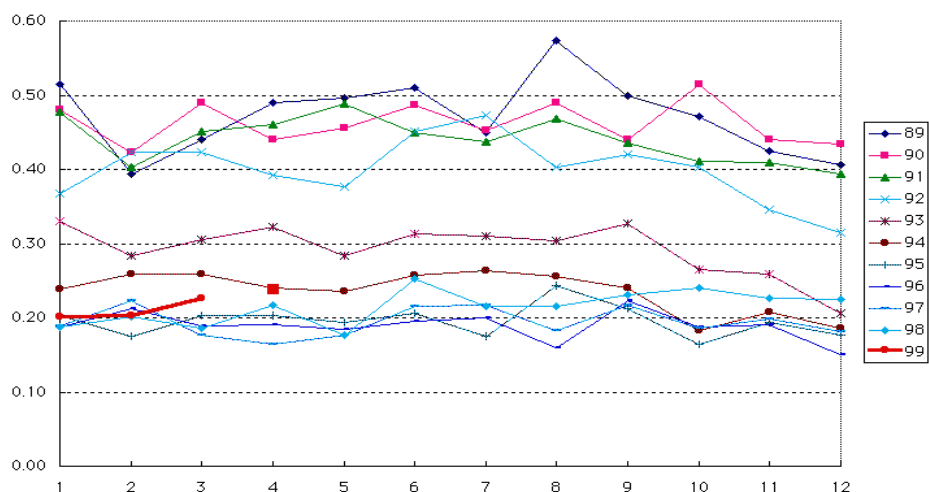
性器ヘルペスウイルス感染症(女性)



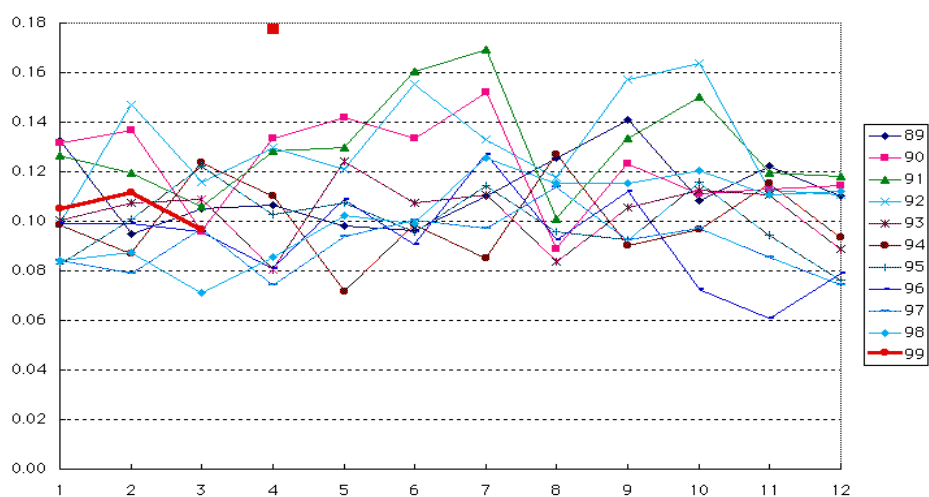
尖形コンジローム(総数)



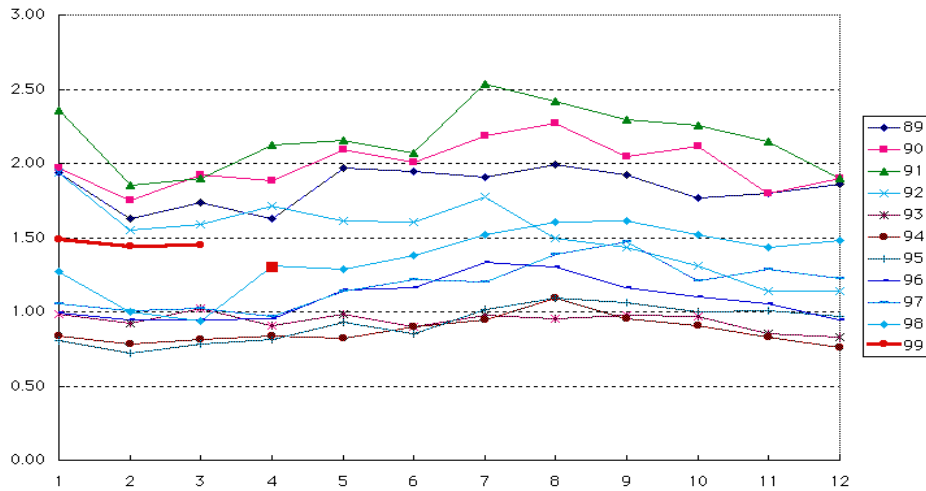
尖形コンジローム(男性)



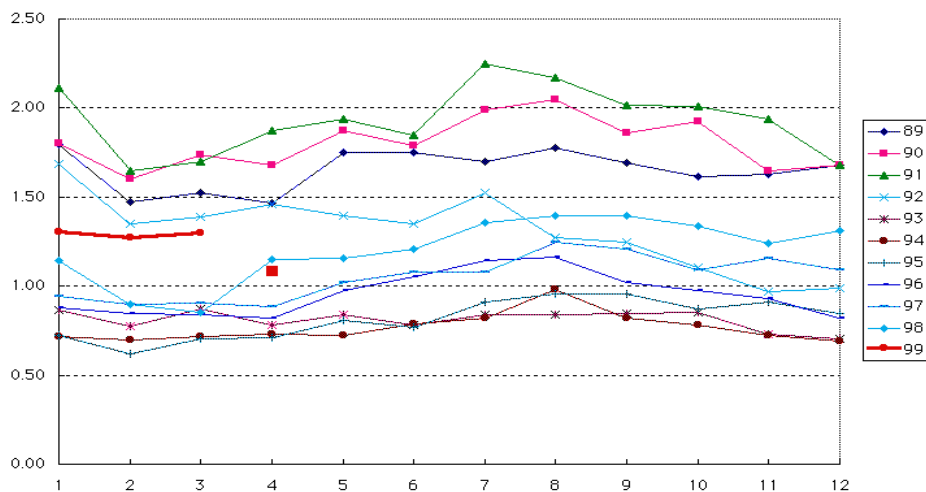
尖形コンジローム(女性)



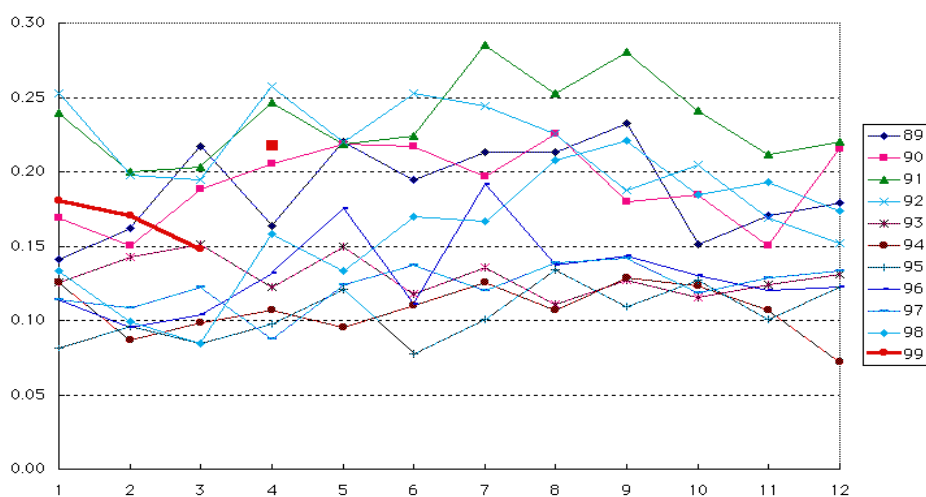
淋菌感染症(総数)



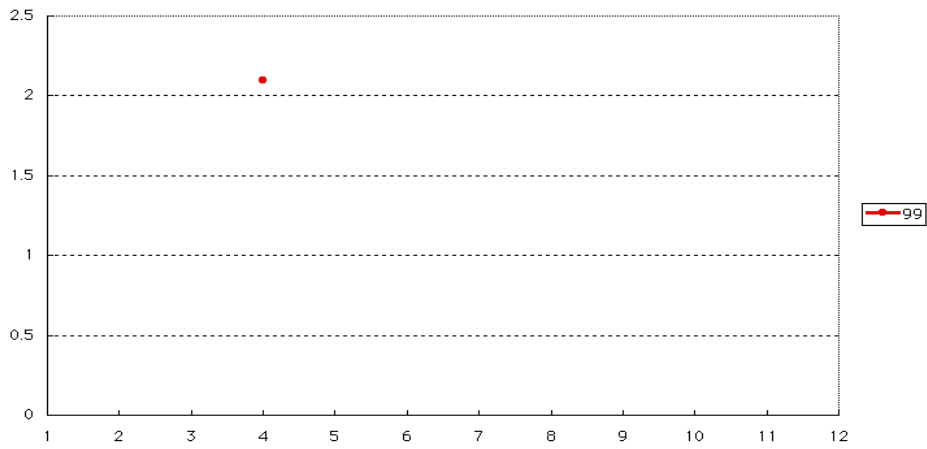
淋菌感染症(男性)



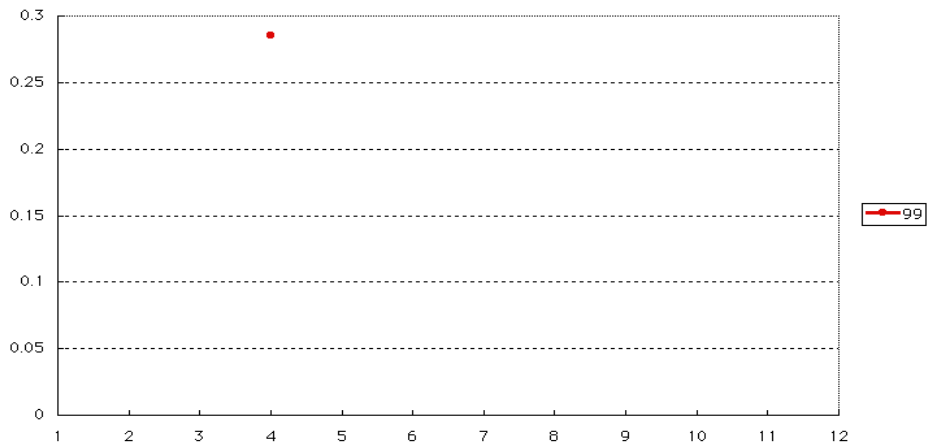
淋菌感染症(女性)



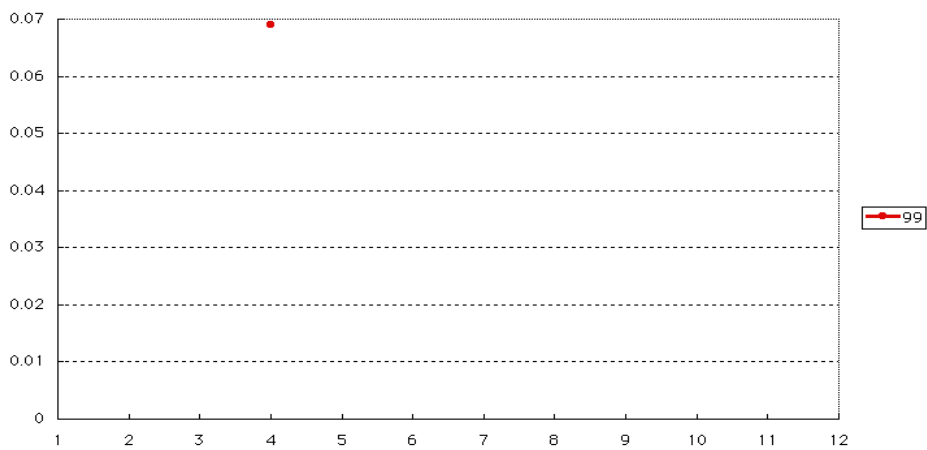
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症



薬剤耐性緑膿菌感染症















第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成11年19週																			
	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳		
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
01	938	0.27	189	0.07	2436	0.93	11180	4.27	6017	2.30	595	0.23	547	0.21	2358	0.90	53	0.02	
北海道	149	0.65	3	0.02	204	1.42	398	2.76	319	2.22	9	0.06	53	0.37	124	0.86	1	0.01	
青森県	107	1.67	-	-	25	0.61	106	2.59	69	1.68	-	-	23	0.56	27	0.66	1	0.02	
岩手県	54	0.87	7	0.18	21	0.55	83	2.18	62	1.63	2	0.05	5	0.13	21	0.55	1	0.03	
宮城県	41	0.45	2	0.03	71	1.20	207	3.51	156	2.64	1	0.02	8	0.14	67	1.14	-	-	
秋田県	34	1.70	3	0.09	48	1.41	172	5.06	93	2.74	2	0.06	11	0.32	25	0.74	-	-	
山形県	13	0.27	-	-	33	1.10	194	6.47	56	1.87	1	0.03	-	-	48	1.60	3	0.10	
福島県	5	0.13	1	0.02	20	0.42	147	3.06	81	1.69	-	-	19	0.40	28	0.58	-	-	
茨城県	15	0.14	5	0.07	52	0.72	208	2.89	109	1.51	1	0.01	13	0.18	40	0.56	1	0.01	
栃木県	2	0.04	-	-	34	0.65	153	2.94	87	1.67	-	-	5	0.10	46	0.88	-	-	
群馬県	11	0.11	4	0.06	83	1.34	167	2.69	138	2.23	1	0.02	8	0.13	59	0.95	1	0.02	
埼玉県	19	0.11	12	0.11	182	1.63	515	4.60	307	2.74	8	0.07	17	0.15	133	1.19	2	0.02	
千葉県	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
東京都	-	-	4	0.03	63	0.44	429	3.02	229	1.61	5	0.04	29	0.20	81	0.57	-	-	
神奈川県	11	0.08	2	0.02	44	0.37	311	2.59	149	1.24	5	0.04	18	0.15	93	0.78	2	0.02	
新潟県	7	0.18	8	0.13	127	2.12	612	10.20	161	2.68	2	0.03	66	1.10	77	1.28	-	-	
富山県	8	0.17	-	-	58	2.00	101	3.48	68	2.34	22	0.76	3	0.10	18	0.62	-	-	
石川県	27	0.56	6	0.21	31	1.07	170	5.86	65	2.24	10	0.34	10	0.34	27	0.93	-	-	
福井県	-	-	4	0.18	12	0.55	239	10.86	63	2.86	1	0.05	-	-	19	0.86	1	0.05	
山梨県	7	0.18	-	-	23	0.96	83	3.46	16	0.67	8	0.33	1	0.04	18	0.75	-	-	
長野県	12	0.17	3	0.06	83	1.60	333	6.40	106	2.04	3	0.06	10	0.19	40	0.77	-	-	
岐阜県	2	0.03	3	0.06	45	0.90	155	3.10	78	1.56	5	0.10	2	0.04	30	0.60	2	0.04	
静岡県	-	-	2	0.02	92	1.08	379	4.46	264	3.11	27	0.32	35	0.41	77	0.91	-	-	
愛知県	10	0.05	6	0.03	140	0.77	685	3.76	566	3.11	88	0.48	17	0.09	191	1.05	4	0.02	
三重県	4	0.05	5	0.11	57	1.27	338	7.51	123	2.73	15	0.33	8	0.18	53	1.18	-	-	
滋賀県	4	0.08	9	0.28	20	0.63	56	1.75	58	1.81	1	0.03	-	-	15	0.47	4	0.13	
京都府	131	1.06	5	0.07	46	0.61	306	4.03	129	1.70	10	0.13	1	0.01	70	0.92	1	0.01	
大阪府	10	0.14	6	0.04	54	0.38	341	2.37	195	1.35	13	0.09	3	0.02	87	0.60	5	0.03	
兵庫県	25	0.13	9	0.07	64	0.50	898	7.02	325	2.54	25	0.20	11	0.09	156	1.22	2	0.02	
奈良県	18	0.33	6	0.17	19	0.54	133	3.80	108	3.09	5	0.14	5	0.14	31	0.89	3	0.09	
和歌山県	19	0.37	3	0.09	34	1.06	106	3.31	102	3.19	4	0.13	23	0.72	28	0.88	1	0.03	
鳥取県	3	0.10	12	0.63	38	2.00	231	12.16	57	3.00	1	0.05	1	0.05	30	1.58	-	-	
島根県	13	0.42	1	0.04	19	0.83	112	4.87	50	2.17	3	0.13	3	0.13	11	0.48	-	-	
岡山県	14	0.18	1	0.02	37	0.69	237	4.39	96	1.78	7	0.13	9	0.17	32	0.59	2	0.04	
広島県	2	0.03	10	0.24	15	0.36	236	5.62	59	1.40	9	0.21	1	0.02	24	0.57	3	0.07	
山口県	3	0.05	2	0.04	51	1.06	252	5.25	131	2.73	21	0.44	1	0.02	46	0.96	-	-	
徳島県	8	0.21	2	0.09	26	1.13	127	5.52	42	1.83	2	0.09	6	0.26	18	0.78	1	0.04	
香川県	-	-	2	0.06	27	0.84	122	3.81	65	2.03	6	0.19	4	0.13	21	0.66	-	-	
愛媛県	9	0.14	12	0.31	66	1.69	247	6.33	126	3.23	42	1.08	3	0.08	63	1.62	-	-	
高知県	34	0.69	2	0.06	24	0.77	69	2.23	119	3.84	5	0.16	13	0.42	21	0.68	-	-	
福岡県	-	-	2	0.04	64	1.33	281	5.85	148	3.08	22	0.46	14	0.29	71	1.48	2	0.04	
佐賀県	6	0.15	-	-	14	0.61	31	1.35	86	3.74	34	1.48	12	0.52	48	2.09	-	-	
長崎県	2	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	22	0.27	8	0.16	54	1.10	204	4.16	164	3.35	40	0.82	10	0.20	63	1.29	1	0.02	
大分県	2	0.03	3	0.08	126	3.50	322	8.94	118	3.28	13	0.36	26	0.72	44	1.22	-	-	
宮崎県	16	0.27	10	0.27	31	0.84	283	7.65	153	4.14	59	1.59	1	0.03	51	1.38	3	0.08	
鹿児島県	45	0.46	4	0.07	46	0.78	372	6.31	221	3.75	57	0.97	35	0.59	60	1.02	4	0.07	
沖縄県	14	0.29	-	-	13	0.38	29	0.85	100	2.94	-	-	4	0.12	26	0.76	2	0.06	





第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成11年19週

01	-----8-----8-----8-----						
	マイコプラズマ   クラミジア肺炎   成人麻疹						
01	肺炎   (オウム病を除く)						
	4-----8-----5-----8-----5-----8-----						
01	報告数   定点当り   報告数   定点当り   報告数   定点当り						
	-----5-----2-----2-----2-----2-----2-----						
	総 数						
		37	0.09	6	0.01	-	-
北海道		3	0.13	-	-	-	-
青森県		1	0.20	-	-	-	-
岩手県		-	-	-	-	-	-
宮城県		-	-	1	0.08	-	-
秋田県		-	-	-	-	-	-
山形県		1	0.11	-	-	-	-
福島県		-	-	-	-	-	-
茨城県		1	0.10	-	-	-	-
栃木県		1	0.17	-	-	-	-
群馬県		-	-	-	-	-	-
埼玉県		-	-	1	0.11	-	-
千葉県		...	...	...	...	...	...
東京都		-	-	-	-	-	-
神奈川県		-	-	-	-	-	-
新潟県		2	0.15	-	-	-	-
富山県		2	0.40	-	-	-	-
石川県		-	-	-	-	-	-
福井県		1	0.17	-	-	-	-
山梨県		-	-	-	-	-	-
長野県		2	0.20	-	-	-	-
岐阜県		-	-	-	-	-	-
静岡県		-	-	-	-	-	-
愛知県		9	0.69	2	0.15	-	-
三重県		-	-	-	-	-	-
滋賀県		-	-	-	-	-	-
京都府		-	-	-	-	-	-
大阪府		-	-	-	-	-	-
兵庫県		4	0.29	-	-	-	-
奈良県		-	-	-	-	-	-
和歌山県		-	-	-	-	-	-
鳥取県		-	-	-	-	-	-
島根県		1	0.13	-	-	-	-
岡山県		2	0.40	-	-	-	-
広島県		3	0.25	-	-	-	-
山口県		1	0.14	-	-	-	-
徳島県		-	-	-	-	-	-
香川県		-	-	-	-	-	-
愛媛県		-	-	-	-	-	-
高知県		-	-	-	-	-	-
福岡県		-	-	-	-	-	-
佐賀県		-	-	-	-	-	-
長崎県		-	-	1	0.08	-	-
熊本県		2	0.13	-	-	-	-
大分県		1	0.13	-	-	-	-
宮崎県		-	-	-	-	-	-
鹿児島県		-	-	1	0.08	-	-
沖縄県		-	-	-	-	-	-

01







## 感染症の話

### <風疹のお話>

風疹(rubella)は、発疹と発熱がほぼ同時に現れ、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症である。風疹ウイルスはTogavirusに属するRNAウイルスで、血清学的には亜型のない単一のウイルスである。

### 我が国における流行状況

風疹は2-3年の周期で10年ごとに大流行がみられていた。最近では、1976、1982、1987、1992年に大きい流行がみられているが、次第にその発生数は少なくなりつつあり、流行の規模も現在のところ縮小しつつある。季節的には春から初夏にかけてもっとも多く発生するが、冬にも少なからず発生があり、次第に季節性が薄れてきている。

### 主な症状

感染から14-21日(平均16-18日)の潜伏期間の後、発熱・発疹・リンパ節腫脹(ことに耳介後部、後頭部、頸部)が三徴候として出現するが、発熱は風疹患者の約半数にみられる程度であり、三徴候のいずれかを欠くものについての臨床診断は困難である。ことに溶連菌による発疹、あまり典型的ではない伝染性紅斑など風疹とよく似ているその他の発疹性疾患は多く、確定診断のためには検査室診断を要することが少なくない。多くの風疹の発疹は紅く、小さく、皮膚面よりやや隆起して全身にみられる斑状丘疹である。発熱と発疹はほぼ同時に現れ3日間ほどで解熱するが(ここから三日はしかともよばれる)発疹が消えるまでにはさらに数日間を要することがある。通常色素沈着や落屑はみられないが、発疹の激しい場合にはこれらを伴うこともある。リンパ節は発疹の出現する数日前より腫れはじめ、3-6週間位持続する。ウイルスの排泄期間は、発疹出現の前後約1週間といわれているが、解熱すると排泄するウイルス量は激減し、急速に感染力は消失する。

### 検査室診断

ウイルスを分離することが病原診断の基礎であるが、血清診断がポピュラーな手段として用いられることが多い。赤血球凝集阻止反応(HI)、中和法(NT)、補体結合法(CF)、酵素抗体法(ELISA)などがあり、急性期と回復期の抗体価の4倍以上の上昇を持って診断する。急性期の特異的IgM抗体をIgM-ELISAなどによって証明すれば、単一血清での診断が可能である。なお抗体の保有を確認するために血液検査が行われることがあるが、CF法は感染後比較的早期に抗体の消失がみられるので、抗体の有無の測定には不向きである。

## 合併症

基本的には予後良好な疾患であるが、血小板減少性紫斑病(1/3000-5000人)急性脳炎(1/4000-6000人)などの合併症をみることもあるが、これらの予後もおおむね良好である。成人では、手指のこわばりや痛みを訴えることも多く、関節炎を伴うこともあるが、そのほとんどは一過性である。

## 先天性風疹症候群(Congenital rubella syndrome: CRS)

風疹に伴う最大の問題は、妊娠前半期の妊婦の初感染により風疹ウイルス感染が胎児におよび、先天異常を含む様々な症状を呈するCRSが高率に出現することにある。新生児期に出現するもの—低出生体重、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、間質性肺炎、髄膜脳炎など先天異常として発生するもの—先天性心疾患、難聴、白内障、網膜症など幼児期以後に発症するもの—進行性風疹全脳炎、糖尿病などCRSの予防は、妊婦が風疹に感染しないようにすることにつきる。そのためには、妊娠前に女性は風疹抗体を獲得しておくことが必要であり、風疹ワクチン接種の最大の意義はこの点にある。

## 風疹の予防(ワクチン)

風疹感染の予防の目的で弱毒風疹生ワクチンが実用化され、広く使われている。MMR(麻疹・ムンプス・風疹)混合ワクチンとして使用している国も増加している。しかし途上国ではワクチンの費用の問題もあり、まだ導入出来ない国が多い。

我が国では以前は13歳から15歳の女子のみが風疹ワクチン接種の対象であったが、風疹の感染予防をさらに徹底するために、平成6年の予防接種法改正以来、その対象は生後12-90カ月の男女(標準は生後12-36カ月)及び経過措置として当分は12-16歳の男女となった。また以前は学校で集団接種として行われていたが、現在は個別接種を推奨する方向性となっている。その結果、風疹の予防接種を受ける幼児の数は増加したが、逆に中学生での接種率は減少した。伝染病流行予測事業による我が国における風疹抗体保有状況をみると、小学校高学年から中学生年齢の女子の抗体陽性率は低く、12歳女子における風疹抗体陽性率は52%にすぎない。風疹の流行の規模は縮小しつつあるが、発生が消えつつあるわけではない。風疹に対する免疫を有さない女性が妊娠した時に風疹の初感染を受ければCRS発生の危険性が高いことは明らかであり、将来のCRS予防のために、中学生に対する風疹ワクチン接種が重要である。

## 感染症新法の中での風疹の取扱い

風疹は第4類の定点把握疾患に定められており、あらかじめ指定された小児科医療機関より週毎に届け出がなされることによってその発生状況が集計され、その結果が医療関係者および一般に公開される。先天性風疹症候群については、第4類

の全数把握疾患に定められており、診断した医師は診断してから7日以内に届け出なければならない。

### 学校保健法の中での風疹の取扱い

風疹は学校において予防すべき伝染病第2種に定められており、通常は発疹が消失するまで出席停止となる。しかし病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではなく、またまれにみられる色素沈着などの場合には出席停止とする必要はないと考えられている。

感染症週報 第1巻、第6号 平成11年5月28日発行

発行：国立感染症研究所 感染症情報センター

厚生省保健医療局結核感染症課

厚生省大臣官房統計情報部

連絡先：〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 (感染症情報センター)

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.mhw.go.jp> <厚生省>

<http://idsc.nih.go.jp> <感染症情報センター>

本週報に記載のデータは、感染症新法に基づく発生動向調査によるものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所等の皆様のご協力により収集されたデータです。本週報記載の内容について、速報性を重視してありますので、今後、調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には、週報上にて訂正させていただきます。また本週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。